

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 19 NO.2

(通巻69号)

平成4年9月1日発行

編集・発行人 福田 誠

〒260

千葉市中央区中央港1丁目10番1号

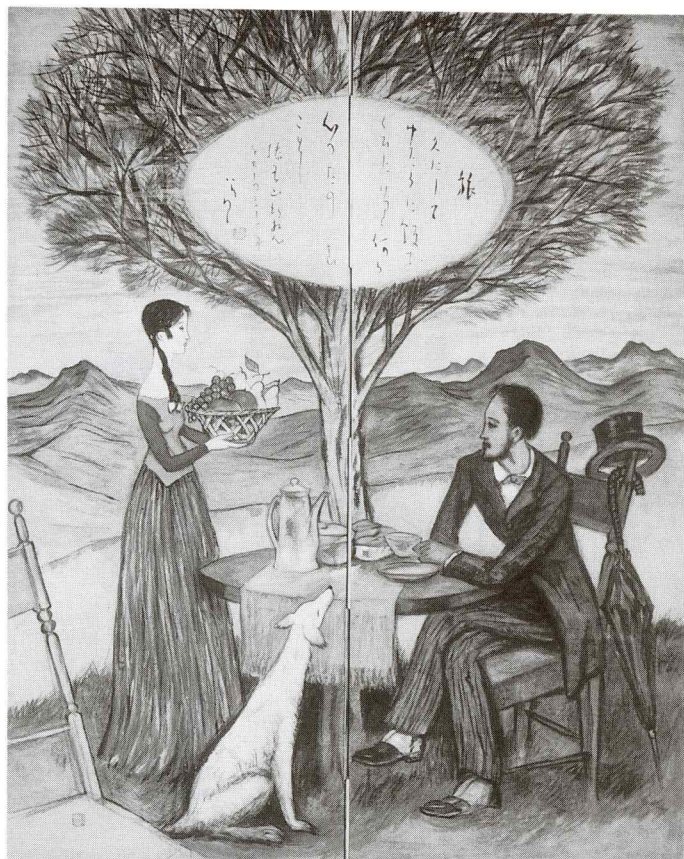
☎043-242-8311(代表)

竹久夢二

「旅」

紙本・着色 屏風二曲一隻 一九三一年

(特別展「竹久夢二展」出品)



画面中央に樹木とテーブルを配し、ティーカップを手にくつろぐ紳士と、夢二好みのほっそりとした果物籠を持つ女性。遠くには夢二が晩年好んで出かけた榛名の山と湖。樹木の中には「久にしてゆたかに飯をくひにけり、何か心のたのしむこと榛名山幻想」とあり、ゆつたりとした雰囲気。緻密な構成的配慮のもとに制作された晩年の代表作です。この作品の紳士は夢二自身を表わしたものです。

夢二は外遊という夢の実現のために昭和六年三月、新宿三越で「渡米告別展」を開催しました。そのとき出品されたのがこの作品です。遠い外国に思いをはせながら、生涯の安住の地と考えていた榛名での夢を描いたものでしたが、二年にわたる旅の疲れで病み、この絵のような世界は実現することはありませんでした。

旅に明け、旅に暮れた夢二。はつきりとした家も持たず、制作に明け暮れ落ち着く間のなかった夢二。晩年、心の平安を求めた夢二の理想郷をこの絵の中に見ることができま

(津田 昇)

特別展

大正浪漫の光と影

河村コレクション特別公開

竹久夢二展

'92・9・5(土)～10・11(日)

近代日本のデモクラシーが花開いた大正期を象徴する画家として名高い竹久夢二(明治十七年～昭和九年)は、幅の広い、ユニークな画家でした。

竹久茂次郎が夢二というペンネームで世に出たのは明治三十九年、雑誌『青年傑作集』に投稿したコマ絵「筒井筒」が第一賞、「母の教」が選外三等となったときからです。続いて同年十一月発行の『ハガキ文学』に睡蓮と蛙のデザインが第一等に入選掲載されました。アール・ヌーヴォーの影響を早々と受け入れた作品でした。

明治四十三年初めて出版された『夢二画集 春の巻』は爆発的な人気を呼び、以後続けて出版されることになりました。このように夢二はスタートの段階から、印刷という情

報の媒体を通して、挿絵(コマ絵)画家として、また詩人として大衆に受け入れられた作家です。画家の絵というより、詩を絵として描く独特の世界を創り、彼はそれを「草画」と称しました。

明治四十三年に始まった「月刊夢二カード」は「月刊夢二ハガキ」に発展し、いっそう人気に拍車をかけ、正に夢二は大衆的な画家として注目

されて行きます。したがって画壇とは無縁であり、また画壇に属さないゆえの自由さが彼の幅広い活躍を可能にしました。

夢二式美人画

モディリアーニやムンクを思わせるような愛いを含んだ女性像、女の哀しさや青春の優しさを秘めた大きな眼差し。こうした夢二式の美人画はど

のようにして生まれたのでしょうか。

明治四十年一月二十四日号の『平民新聞』の記事は「遂に大いなる眼の殊に美しき人(中略)此頃氏の描く婦人の眼が殊に大きくなりたるは、蓋し夫人をモデルとするに依れるなり」と岸たまきとの結婚を報じています。確かに、たまき夫人をモデルにしたかもしれないが、あくまで夢二の創造上の女性として表出されたイメージです。まさに夢二の内面から湧き出た象徴として昇華されたものでした。

夢二の画風

夢二はさまざまな材料を用いて描いた画家です。したがって日本画も、日本画の技法形式を守ったわけではなく、むしろ伝統的な技法や約束事に縛られることなく軸装や屏風の構図を巧みにこなしています。

また描線に対しても、筆使い一つ一つに様々な工夫が見られます。筆運びを反復するようなタッチの「室之津懷古」やかすれたタッチの「女十題」などがその例です。

さらに夢二の特徴を表すものに絵と詩(書)の融合があります。この方法は初期の詩画集(草画)にもみられましたが、日本画として絵と書を一枚の画面で調和させる表現方法は、江戸時代の浮世絵や文人画の手法を彼なりに用い



「長崎十二景 丘の青楼」



「室之津懷古」



「青春譜」

多彩な業績を残した夢二に照明を当て、約二百余点の作品を並べます。また「夢二と房総」コーナーを設けて、当時全国的に流行した「宵待草」に関わる作品、資料等をパネル展示しています。

(津田 昇)

たものでした。彼の絵に見られるロマン的風潮は様々な影響によるものですが、初期、特に明治三十年代のドイツロマン派やアール・ヌーヴォーを取り入れた藤島武二・青木繁らの作品に夢二は強い影響を受けました。「白樺」によって紹介されたヨーロッパ世紀末芸術の画家達、シャヴァンヌ、ホイッスラーの感化を受け、「ユーゲント」誌などドイツの美術雑誌からも多くのものを取り入れました。

夢二の商業デザイン

夢二がデザイナーとしての真価を発揮したのは大正三年たまきのために、日本橋呉服町に開店した港屋の商品です。

版画、千代紙、封筒、風呂敷、帯、浴衣地。これらは装飾を芸術に高めた、アール・ヌーヴォーの影響が見られる洗練されたものです。夢二はイラストレーターとしての力も發揮し、セノオ楽譜のイラストも大正五年から昭和二年にかけて百七十種を手がけました。夢二はデザイン工房「どんたく図案社」や「手による産業」の育成を目指した榛名山美術研究所を設立する夢を持っていましたが、いずれも実現をみずに終わりました。しかしながら夢二の活動は多彩であり今日にいたっても色あせることがあります。今回の展覧会は日本画家・洋画家・挿絵画家・素描家・デザイナーとして、多彩な業績を残した夢二に照明を当て、約二百余点の作品を並べます。また「夢二と房総」コーナーを設けて、当時全国的に流行した「宵待草」に関わる作品、資料等をパネル展示しています。

★開館時間

午前九時～午後四時三〇分
(入場は四時まで)

★観覧料

一般五〇〇円(三〇〇円)
高・大学生三〇〇円(二〇〇円)、小・中学生二〇〇円(七〇円)
(内は二〇名以上の団体料金)

◇美術講演会◇

日時 九月十二日(土)二時
場所 美術館講堂
演題 「竹久夢二―愛と孤独の絵画」

聴講料 無料
定員 二百名 当日先着順

◇「夢二の詩」コンサート◇

日時 九月十九日(土)二時～三時
場所 美術館講堂
演奏 ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉

内容 竹久夢二作詞の曲を中心に演奏
入場料 無料
定員 二百名

※申込方法 往復はがきに、コンサート名、氏名、住所、電話番号を明記の上、美術館まで。九月十日(木)必着。申込多数の場合は抽選。

房総の美術家シリーズ 22

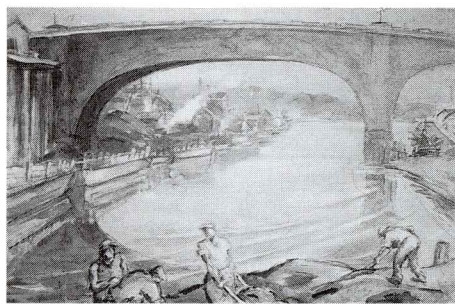
石井光楓展

11.21(土)～12.24(木)

本館では開館以来、房総に生まれ、あるいは定住して近代美術の発展に貢献した作家たちの再発見と顕彰を目的とした企画展・房総の美術家シリーズを開催してきました。今年度は、その第二十二回展として、「石井光楓展」を開催します。洋画家石井光楓(いしい・こうふう)は、夷隅郡浪花村(現大原町)に生まれ、はじめ石井林響に日本画を学び、のちに日本美術院研究所で洋画を学び、第三回

展として、「石井光楓展」を開催します。洋画家石井光楓(いしい・こうふう)は、夷隅郡浪花村(現大原町)に生まれ、はじめ石井林響に日本画を学び、のちに日本美術院研究所で洋画を学び、第三回

展として、「石井光楓展」を開催します。洋画家石井光楓(いしい・こうふう)は、夷隅郡浪花村(現大原町)に生まれ、はじめ石井林響に日本画を学び、のちに日本美術院研究所で洋画を学び、第三回



「橋畔」

帝展で「牛の蹄を切る」が入選し、特選候補となりました。彼は、その後アメリカに渡り、カリフォルニア・アート・スクールや、シカゴのアート・インスティテュートに学び、水彩などの技法を身につけ、さらに渡欧し、パリのアカデミー・ジュリアンで洋画を本格的に学びました。留学中の約十六年間に、彼は優れた描写力と東洋的味わいのある作品をパリのサロン等に数多く発表しています。

昭和六年に帰国。以後は主に春陽会展に出品し、欧米で培った強靱な造形感覚が評価されて、二十二年に春陽会展を受賞し、二十四年に会員となりました。

昭和二十四年から三十三年まで、県立長生第一高等学校で美術を教えるとともに、長い海外生活の体験をもとに郷土房総の風土を新鮮な視点でとらえ、色面を強調したり、エコール・ド・パリ(パリ派)的な画風なども試みながら制作に励みました。

本展は公立美術館で開かれる初の回顧展として、油彩五十二点、水彩五十四点、その他関係資料を初公開します。

常設収蔵作品展

常設収蔵作品展第Ⅱ期の中期は、九月五日（土）～十月十一日（日）まで、後期は十一月二十六日（木）～一月十日（日）までの会期で、いずれも「房総と近代美術」の区分により、第一展示室（中期のみ。後期は第三展示室）で開催します。

この「房総と近代美術」は、常設展のどの会期でも必ず設け、できるだけ多くの方々に本館の代表的な作家の作品や日頃から特に鑑賞の要望の高い作品をご覧いただけるようにしています。このため会期毎に一部作品の展示替えをおこないますが、ほぼ同様の内容で開催しています。

主な展示作品は、近代洋画の発展に多大な功績を残し、我が国の洋画の展開にも影響を及ぼした、印象派の巨匠ルノワールの晩年期の秀作「少女像」、ミレーなどバルビゾン派の作品、同じくバルビゾン派の作家であり、その激情的な表現から「風景画のベーターヴェン」と称された、デュプレの大作「森のはずれ」、千葉県ゆかりの洋画家であり、

近代日本の洋画界で先駆的な役割を果たした浅井忠と、その関連の梅原龍三郎などの作品。また日本画では、院展で活躍した富取風堂の作品などを展示します。

なお、このあと予定している常設収蔵作品展の第三期は平成五年二月二十七日（土）～三月二十八日（日）の会期で、「房総と近代美術」のほかに、企画展示として浅井忠とその関連の作家の作品を紹介する「浅井忠とその周辺の作家たち」、版画の技法に注目した「版画」の、三つの区分で開催する予定です。

「リアリズムの追求」をテーマとした、全国規模の公募展「第3回浅井忠記念賞展」の開催にあたり、只今作品を公募しています。

本展は千葉県出身の近代洋画の先駆者・浅井忠の画業を顕彰し、その精神を現代に生かし、現代の美術振興に貢献するために、昭和五十八年度から始まりました。平成二年度には第2回展を開催し、全国各地から多数の作品が寄せられるなど、広く周知された展覧会として成長してまいりました。

この実績をふまえ、第3回展を次のとおり開催します。

「第3回浅井忠記念賞展」作品公募のお知らせ

- ◆応募資格：国籍、経歴、年齢を問いません。
 - ◆募集作品：油彩・水彩の洋画系の平面作品で、平成二年十二月以降に制作された具象的傾向の未発表作品。規格は二〇〇号以内で額縁を付けて下さい。
 - ◆作品搬入日：平成四年十一月十三日（金）～十五日（日）
 - ◆賞・入選：大賞一点、優秀賞三点 入選約一〇〇点程度
 - ◆会期：平成五年一月十六日（土）～二月二十一日（日）
 - ◆会場：千葉県立美術館
- ※詳細は千葉県立美術館まで

第十六回 千葉県移動美術館

今年度の移動美術館は、夷隅郡大原町と香取郡大栄町で開催し、美術館収蔵作品及び第44回県展の県展賞等優秀作品を加え、約50点を紹介します。会場・会期は次のとおり。

- ◎大原町文化センター
所在地 大原町大原七八三八
会期 11月12日（木）～25日（水）
- ◎大栄町コミュニティプラザホール
所在地 大栄町松子三九三
会期 11月28日（土）～12月10日（木）

新収蔵作品紹介

平成四年四月一日から八月三十一日まで収蔵された作品を紹介いたします。

購入（基金取得を含む）

〔洋画〕

- 石井柏亭作
「冬の朝（行徳）」（油彩一九九）
- 岸田劉生作
「霽れたる冬之日」（油彩一九七）
- 時田幸彦作
「犬吠」（油彩一九九）
- 〔工芸〕
- 高村豊周作
「青銅花入」（鍍金）
- 信田 洋作
「夕映の甲斐の山々」（彫金）

〔版画〕

- 浜口陽三作
「3つのポプラ」（一九六）「西瓜」（一九九）「緑の毛糸」（一九八）「赤い蝶」（一九九）「ロビーナのさくらんぼ」（一九九）



高村豊周 「青銅花入」



岸田劉生 「霽れたる冬之日」

- 同（七枚組）・同（十五枚組）
 - 「くるみ」（一九九）「びんとレモン」（一九九）「青い蝶」（一九八）
 - 同（七枚組）・同（十五枚組）
 - 「野」（一九八）「編み棒」（一九八）
 - 同（七枚組）・同（十五枚組）
 - 「3匹の蝶」（一九八）
 - 同（七枚組）・同（十五枚組）
 - 「カルフォルニア・チェリー」（一九七）
 - 同（七枚組）・同（十五枚組）
 - 「22のさくらんぼ」（一九八）
 - 同（七枚組）・同（十五枚組）
 - 「黄色い編み棒」（一九八）
 - 「緑のポプラ」（一九八）
 - 「緑のさくらんぼ」（一九八）
 - 「びんとレモンと赤い壁」（一九八）
 - 「琥珀色のくるみ」（一九八）
 - 「青いくるみ」（一九八）
 - 「青紫色の蝶」（一九八）
- ※以上すべて銅版。

美の扉

かたる・つくる

父 石井柏亭の作品の思い出

田坂 ゆたか

「晩春行楽図」

父柏亭の昭和十三年の作で、当時田端に住んでいた私達は電車一本で行ける大宮公園へよく遊びに行った。父にしては珍しい大作の三十号大の水彩画を大宮公園でピクニックをしている家族を組み合せて描こうとした。



石井柏亭 「晩春行楽図」

母と七人兄弟が揃った絵は他にはない。松林の丘に桜の咲き残る季節でピクニックには好適であったが、これだけの人数に戦時下とは言え御弁当の類があまりにも貧弱だと後で私達は笑い合った。

こういう群像を描く時、父は用意周到で、先ず現場で小さいスケッチをし、後、背景だけの水彩画を描いた。家で大きく伸ばしデッサンをきめてから、一人か二人ずつ近所の家の広い庭を借りて芝生

母も今は無く、この七人の内残るのは五人で、右端の次姉と後の弟は早く世を去っている。絵描きは真中の帽子をかぶった三姉（一水会所属）と私（日本水彩画会々員）の二人だけである。

その後行つて見たことはないが、このあたりは今、どんな変り方をしているかと思う。この絵は昭和十九年頃他の絵などと一緒に埼玉の酒屋屋のお蔵に預けたので戦災をまぬがれたものである。

「老太々」

父は大正八年に上海に暫く滞在して絵を描いていた。上海には母の兄（父にとって義兄）が貿易の仕事をしてい



石井柏亭 「老太々」

たからでこの太々はその店の番頭の母親である。三日位かかって八号大の油絵を仕上げた。バックにかかる額や柱、机、椅子などに縦の直線が多く見られるが、そこに人物の立体的な丸味が上手く収まって、又中国婦人の堂々とした落ちつきある風格もよく表現されている。老婦人であるから着物の色も暗く地味な調子なのだが壁の色と絵の中の草花がそこに明るさを与えている。

三日がかりで仕上げた絵を人力車呼んで乗ったのはいいが車の上で大事に捧げていた手を滑らしてカンバスを地上に落し、泥の小点が画面に無数についたのを諦めの良い父は乾いてから取れば良いなどと記してもいる。

この額縁は中国製で紫檀に模様彫りをほどこしたものである。父がこの上海に居た頃は排

日の騒ぎがひどくなつて来て中国人のモデルを得るのも難しく、郊外などへ出かけるのも躊躇する様になって来ていた。それで父は友人の欧陽予情氏の母堂を水彩で、人の来ない欧陽氏の室で描いたりしている。何事にも臆さない強さと自信を持った父ではあったが苦労もした様である。

欧陽氏は俳優の梅蘭芳の友人で自分も女形の役者でもあり文学青年でもあった。

情報資料室だより

●展覧会図録寄贈の御紹介

千葉県在住の鈴木満平氏から昭和五十五、六十一、六十二、昨年度に続き、今年度も図録約二百冊を頂きました。

氏からの寄贈図録は、今回のものを含めて千五百冊を超え、長年に渡り本館の発展に御協力を戴いております。厚く御礼申し上げます。主な図録は次の通りです。

「アルゼンチン国立美術館展」「ジム・ダイン展」「橋本明治展」「アメリカ絵画200年展」「グッゲンハイム美術館名品展」「工藤甲人展」「フ

イレントウエ・ルネサンス芸術と修復展」「マルケ展」「山口蓬春展」ほか

お蔭様で情報資料室の図録も約八千冊となり充実してきました。図録はカード目録をご覧頂き、希望のものを職員にお申しつけください。

●購入図書を紹介

今年度に入り、四十七冊の図書を購入しました。主なものは次の通りです。

○参考図書

「画集・画文集全情報」「世界服飾文化史図鑑」「美術家索引」「文展・帝展・新文展・日展、全出品目録、出品歴索引」ほか

○作品集

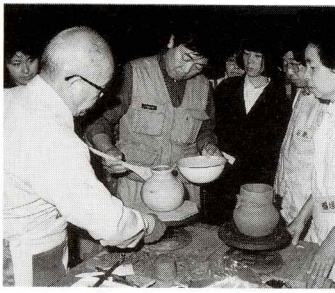
「安田侃彫刻作品集」「石井鶴三素描集」「浜口陽三自選作品集」「多田美波」「舟越桂作品集」ほか

○評論、随筆等

「美心游歴」「全体人河北倫明」「高村豊周文集I」「パウハウス叢書」ほか

●情報資料室は、祝日を除く火・金曜日の十二時半～四時半に開室しています。

報告



陶芸講座

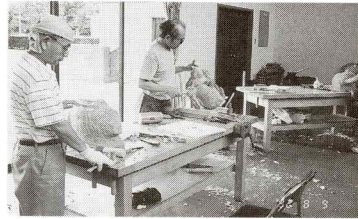
5月22日から始まった美術館実技講座も6講座が終了し、現在実施中の陶芸講座2を含め3講座を残すのみとなりました。友の会入門講座9講座を含め18期にわたる美術館を会場とした実技講座は、いずれも受講希望が多く、また県内各地より参加がありました。これまで終了した美術館実技講座の内容は次のとおりです。

○日本画講座(12日間)
講師・斎藤惇氏。参加者21名
内容・静物など(15号)

○版画講座(12日間)
講師・増田陽一氏。参加者19名
内容・銅版画など2版。

○陶芸講座(9日間)
講師・横山光ノ介氏。参加者35名
内容・香合と水差

実技講座の報告・案内



彫刻講座

○洋画講座1(10日間)
講師・松沢茂雄氏。参加者35名
内容・ヌード、コスチューム(15号)

○洋画講座2(10日間)
講師・戸田健夫氏。参加者35名
内容・静物、コスチューム(水彩)

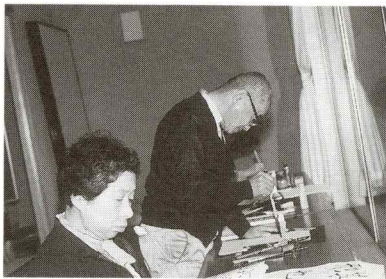
○彫刻講座(12日間)
講師・渋谷三朗氏。参加者18名
内容・うさぎをモデルとした木彫。

案内

【美術館実技講座】書芸講座

経験者を対象に、漢字の実習を通して、臨書の基礎を中心に学習します。

会期 12月3日(木)～5日(土)(3日間)



書芸講座

講師 中村象閣氏
締切 11月19日(木)

○金工講座
経験者を対象に、銅板レリーフで、鍛金、彫金の技法を学習します。

会期 1月22日(金)～2月4日(木)(12日間)
講師 小林正利氏
締切 1月8日(金)

【申込方法】

往復はがきに、希望講座名、氏名、住所、電話番号を明記の上、美術館普及課まで。なお、定員を越えた場合には抽選となります。

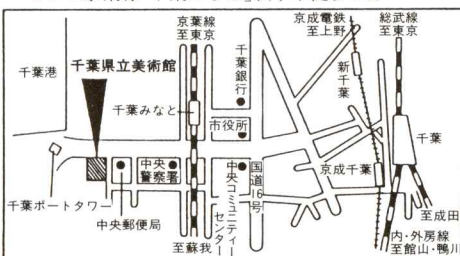
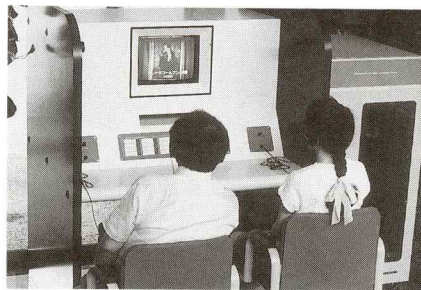
またこのほかにも美術館友の会で、入門講座を実施しています。詳しくは美術館友の会事務局まで。

日誌抄

4・1	5・14	5・16	5・21	5・22	5・23	5・25	6・11	6・13	6・27	7・1	7・2	7・16	7・23	7・27
常設収蔵作品展Ⅰ期（5・6・21）	県立美術館・博物館協議会庶務課長部会及び学芸・普及課（科）長部会	特別展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」（5・6・21）	フランス画家ヤンケル氏、他2名来館	日本画講座（5・6・4	講師 斎藤惇氏） 第1回美術講演会	（講師 岡谷公二氏） 美術館協議会	版画講座（5・25 講師 増田陽一氏）	第2回美術講演会 （講師 塩水流功氏） 常設収蔵作品展Ⅱ期・前期（5・8・30）	陶芸講座Ⅰ（5・30	講師 横山光ノ介氏） 洋画講座Ⅰ（5・12	講師 松沢茂雄氏） 展示室利用団体事前協議会	洋画講座Ⅱ（5・8・9 講座 戸田健夫氏）	博物館実習（5・8・1	

＜交通案内＞

- JR総武線「千葉駅」より「千葉ポートタワー」バス15分「美術館・郵便局前」下車徒歩1分
- JR京葉線「千葉みなと」駅下車徒歩8分



個別ビデオライブラリー

移動美術館打合せ会
彫刻講座(21講
師 渋谷三朗氏)
個別ビデオライブラ
リー設置